

# 「若手による石州和紙の郷再発見事業」

浜田市立井野公民館

## 1 井野地区の概要

- (1) 人口：678 人  
世帯：348 世帯  
高齢化率：59.6%  
(平成 31 年 1 月末現在)
- (2) 井野地区は、大きく井野、芦谷、室谷地区に分かれており、集落は、大小様々な 17 集落で構成されている。
- (3) 井野公民館は、旧井野中学校が改修された施設であり、地区住民が母校を訪ねるように親しく集う場となっているなど、公民館の果たす役割は大きい。また、少子高齢化が加速する中にも、地域のために何かできないだろうかと思いついた若手（若者）を中心とした地域活動グループが公民館を拠点に動き出している。

## 2 事業の趣旨

井野地区は、古くから和紙の郷として知られ、かつては家内産業として和紙原料の楮（こうぞ）栽培や紙すきを行い、それにまつわる伝説が語り継がれるほど生活に密着した和紙産業文化の歴史を持つ地域である。産業経済活動として楮栽培には行政支援も入り、取組が行われてはいるが、今では一部の地域において楮栽培のみを行っている現状にある。石州半紙の評価の高まりとは逆に、井野地区での楮栽培は衰退し、和紙文化の継承も危ぶまれるという地域課題がある。

このような地域の「ひと、もの、こと」の現状から、次代を担う若手（若者）による石州和紙の郷再発見事業を公民館で取組むことによって、地域に残る貴重な伝統産

業の復興と若者の地域参画意識の高揚を目指す。

- (1) 公民館が主体となって、若手(若者)グループが持っている、楽しくつなごうとする場づくりの力をいかしながら、楮・和紙文化を地域全体で再認識する活動に取り組む。
- (2) 地域住民に対して石州和紙の文化を守る機運を醸成するとともに、地域の若手(若者)が楽しく集いながら地域課題に取り組む意識を高める。
- (3) 事業のゴールを伝統産業の復興とし、一戸一株運動に取り組む。

## 3 具体的な取組内容

### (1) 石州和紙でつながる

～和紙の郷再発見会議～

井野を拠点として和紙関連の活動をしている SUKUSUKU(スクスク)や石州和紙協同組合、和紙会館、若手を中心としたグループ「井野端委員会」等が、同じ目的でつながる会議の開催（延べ 15 回）

### (2) 石州和紙を知る～石州和紙学習会～

若手（若者）グループや地域住民有志が、楮栽培や紙すき等の伝統産業の歴史や現状を学んだり、紙すき体験をしたりすることによって、石州和紙の文化への理解を深める。

平成 30 年 11 月 28 日(水)

大入学「井野の和紙文化を知り楽しもう！」

：参加 29 名



大入学「井野の和紙文化を知り楽しもう！」  
楮畑の見学

### (3) 石州和紙に親しむ

～神楽体験・紙すき体験・灯籠づくり～

井野公民館を会場として開催される「井野の夏まつり」「いのイルミ」「農業まつり」の場において、井野地区は古くから和紙の郷であったことを再認識できるような仕掛けを、若手（若者）グループが中心となって取り組む。

ア 平成 30 年 8 月 12 日（日）

石州和紙紙漉き体験：参加 15 名

イ 平成 30 年 8 月 31 日（金）

～10 月 26 日（金）

石見神楽体験教室：参加 8 名

ウ 平成 30 年 10 月 12 日（金）

神楽道具をオール和紙で作ろう！  
：参加 21 名

エ 平成 30 年 11 月 19 日（月）

ま～るいあかりをつくろう！  
：参加 7 名

オ 平成 30 年 12 月 23 日（日）

いのイルミ：参加 30 名



手漉き和紙体験

### (4) 石州和紙を支える

～楮栽培 一戸一株運動～

和紙の郷再発見事業のゴールを伝統産業の復興とし、一戸一株運動に取り組むことにより、井野地区全域での楮栽培を促進することを公民館から発信する。

平成 31 年 3 月 16 日（土）

～23 日（土）

一戸一株運動：348 世帯

## 4 評価と成果

- (1) 色々の体験活動や学習会をとおして、地域内の若手や地域住民、楮生産者がつながることが出来た。
- (2) 若手が、歴史を含めた和紙文化を守っていかねばという意識の高揚がみて取れた。
- (3) 積極的な地域参画をしていこうとする行動が芽生えた。

## 5 今後の課題と見通し

### 【課題】

- (1) 一戸一株運動を推進する上での定期的な追跡調査の方法。
- (2) 若手の地域参画意識の継続。

### 【見通し】

- (1) 一戸一株運動での楮が成木となり株分けをすすめていき、将来的に共同出荷につながるよう支援をしたい。
- (2) 若手の中から楮生産農家へと展開したい。

今後、井野端委員会とスクスクの協働により、多角的な活動の展開が生まれてくるのではないかと期待をしている。井野端委員会の楽しくつながる／つなげる場づくりの力と、グループスクスクの熱い思いが相乗効果となり、若手世代はもちろんのこと、それ以外の地域住民へと広がり、近い将来、和紙の郷復活といえる活動へとつながっていくと思う。公民館は、その活動の支援を続けていきたい。



里山の情景を  
思い出せる地  
域に……

（文責：主事 中村 淳子）